

部落差別の認識について

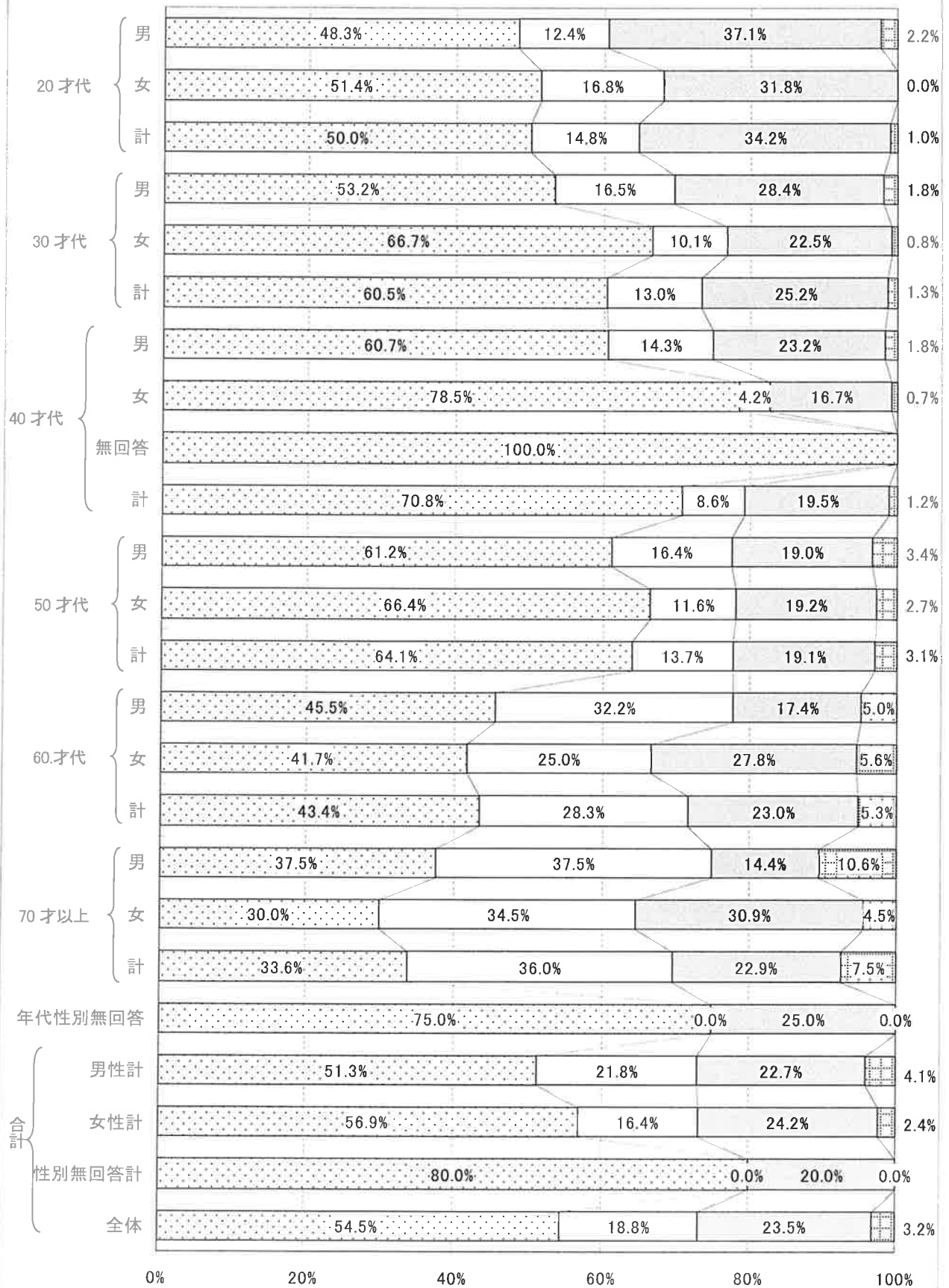
質問12 部落差別が今でもあると思いますか。

- 1 思う。
- 2 思わない。
- 3 わからない。

この質問は、自らにある意識や考え、また、周辺の人たちの言動や雰囲気からみて、現在も部落問題に起因する差別があると認識できているか否かを問うている。

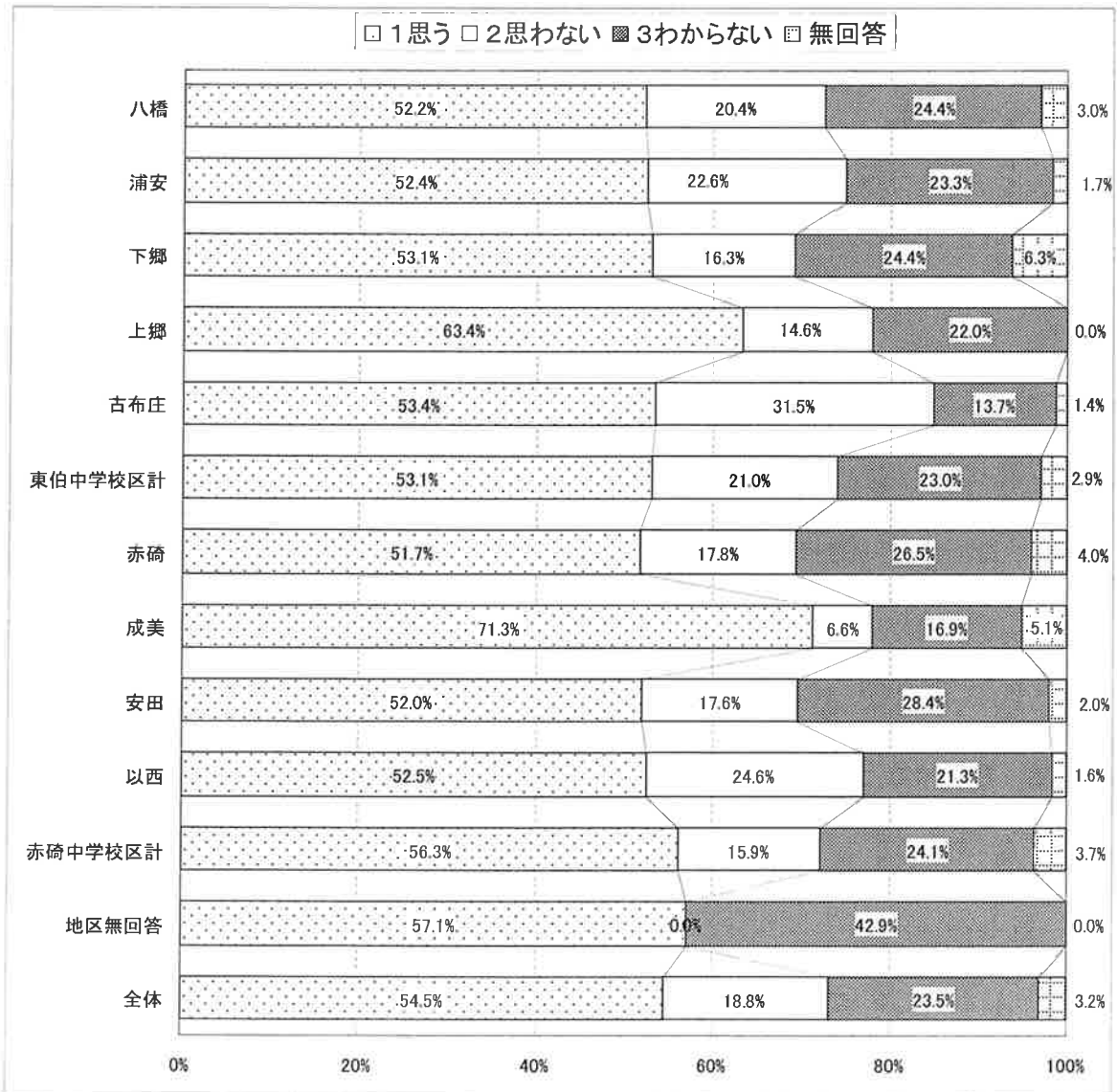
		1. 思う		2. 思わない		3. わからない		無回答		合計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
20才代	男	43	48.3%	11	12.4%	33	37.1%	2	2.2%	89
	女	55	51.4%	18	16.8%	34	31.8%	0	0.0%	107
	計	98	50.0%	29	14.8%	67	34.2%	2	1.0%	196
30才代	男	58	53.2%	18	16.5%	31	28.4%	2	1.8%	109
	女	86	66.7%	13	10.1%	29	22.5%	1	0.8%	129
	計	144	60.5%	31	13.0%	60	25.2%	3	1.3%	238
40才代	男	68	60.7%	16	14.3%	26	23.2%	2	1.8%	112
	女	113	78.5%	6	4.2%	24	16.7%	1	0.7%	144
	無回答	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
	計	182	70.8%	22	8.6%	50	19.5%	3	1.2%	257
50才代	男	71	61.2%	19	16.4%	22	19.0%	4	3.4%	116
	女	97	66.4%	17	11.6%	28	19.2%	4	2.7%	146
	計	168	64.1%	36	13.7%	50	19.1%	8	3.1%	262
60才代	男	55	45.5%	39	32.2%	21	17.4%	6	5.0%	121
	女	60	41.7%	36	25.0%	40	27.8%	8	5.6%	144
	計	115	43.4%	75	28.3%	61	23.0%	14	5.3%	265
70才以上	男	39	37.5%	39	37.5%	15	14.4%	11	10.6%	104
	女	33	30.0%	38	34.5%	34	30.9%	5	4.5%	110
	計	72	33.6%	77	36.0%	49	22.9%	16	7.5%	214
年代性別	無回答	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	4
合計	男性計	334	51.3%	142	21.8%	148	22.7%	27	4.1%	651
	女性計	444	56.9%	128	16.4%	189	24.2%	19	2.4%	780
	性別無回答計	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	5
	合計	782	54.5%	270	18.8%	338	23.5%	46	3.2%	1,436

□ 1.思う □ 2.思わない □ 3.わからない □ 無回答



地区別

質問12	1 思う		2 思わない		3 わからない		無回答		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
八橋	141	52.2%	55	20.4%	66	24.4%	8	3.0%	270
浦安	151	52.4%	65	22.6%	67	23.3%	5	1.7%	288
下郷	85	53.1%	26	16.3%	39	24.4%	10	6.3%	160
上郷	26	63.4%	6	14.6%	9	22.0%	0	0.0%	41
古布庄	39	53.4%	23	31.5%	10	13.7%	1	1.4%	73
東伯中学校区計	442	53.1%	175	21.0%	191	23.0%	24	2.9%	832
赤碕	154	51.7%	53	17.8%	79	26.5%	12	4.0%	298
成美	97	71.3%	9	6.6%	23	16.9%	7	5.1%	136
安田	53	52.0%	18	17.6%	29	28.4%	2	2.0%	102
以西	32	52.5%	15	24.6%	13	21.3%	1	1.6%	61
赤碕中学校区計	336	56.3%	95	15.9%	144	24.1%	22	3.7%	597
地区無回答	4	57.1%	0	0.0%	3	42.9%	0	0.0%	7
全体	782	54.5%	270	18.8%	338	23.5%	46	3.2%	1,436



<分析>

- 全体では、部落差別は今もあると「思う」が54.5%で最も高い。「わからない」23.5%、「思わない」18.8%、「無回答」3.2%と続く。
- 年代別でみると、「思う」は40才代の70.8%が最も高く、最も低い70才以上の33.6%とは約37ポイントの差がある。次いで50才代が64.1%と高い。70才以上については、「思わない」が36.0%で最も高く、「思う」の33.6%を2.4ポイント上回る。
- 男女別では、「思う」と答えた女性が56.9%であり、男性より5.6ポイント高い。
- 年代男女別でみると、「思う」は、40才代女性の78.5%が年代男女中最も高く、同年代男性より17.8ポイント高い。次いで30才代女性の66.7%が高く、同年代男性より13.5ポイント高い。一方、「思わない」は70才以上男性の37.5%が最も高い。
- 地区別でみると、「思う」は成美地区の71.3%が最も高く、次いで上郷地区の63.4%である。

【質問12（部落差別の存在の認識）と、質問6-1（研修会等への参加回数）との関連】

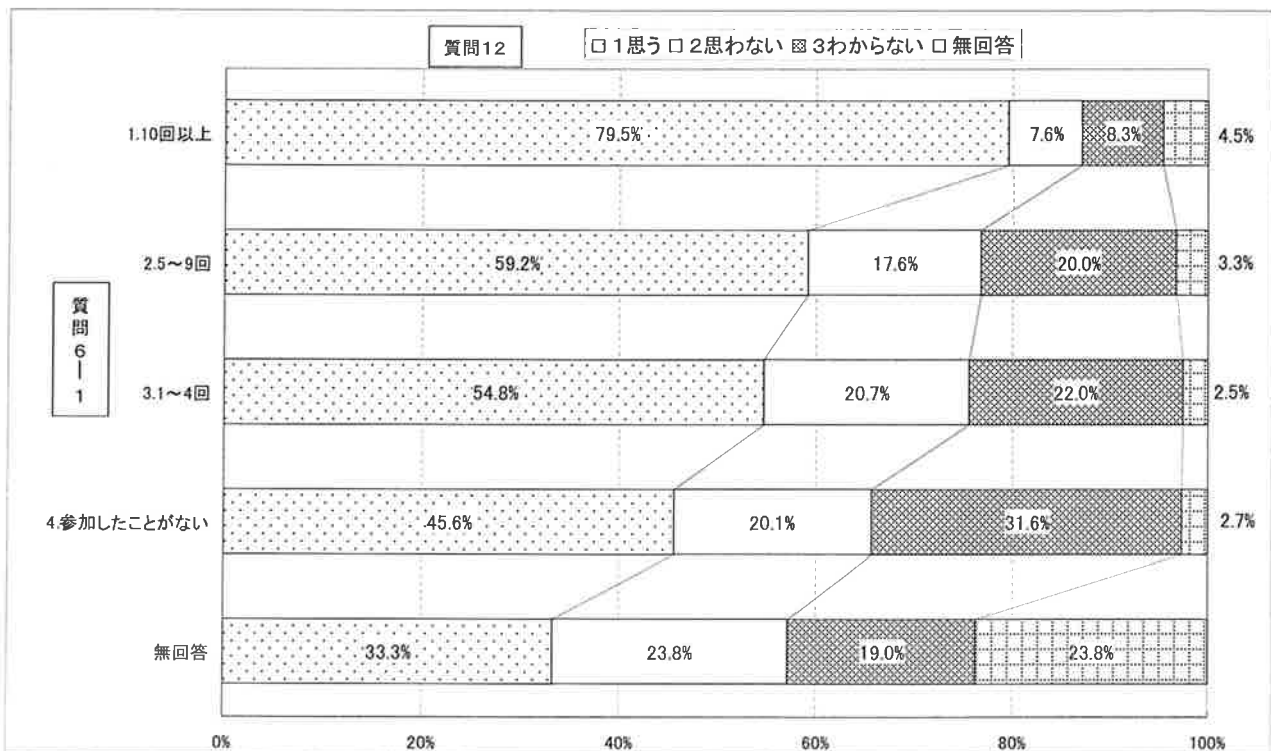
[質問6-1の内容]

あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

- 1. 10回以上参加した。
- 2. 5～9回参加した。
- 3. 1～4回参加した。
- 4. 参加したことがない。

このクロス集計では、部落差別の存在の認識について、研修会等への参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

質問12 \ 質問6-1	1 思う		2 思わない		3 分からない		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 10回以上	105	79.5%	10	7.6%	11	8.3%	6	4.5%	132
2. 5～9回	145	59.2%	43	17.6%	49	20.0%	8	3.3%	245
3. 1～4回	307	54.8%	116	20.7%	123	22.0%	14	2.5%	560
4. 参加したことがない	218	45.6%	96	20.1%	151	31.6%	13	2.7%	478
無回答	7	33.3%	5	23.8%	4	19.0%	5	23.8%	21
									1,436



<分析>

- 研修会等に「10回以上」参加している人で、部落差別が今でもあると「思う」と答えたのは79.5%である。これは、「参加したことがない」人の45.6%より約34ポイント高い。

また、「10回以上」参加している人は、「思わない」7.6%と「わからない」8.3%を合わせると15.9%である。しかし、「参加したことがない」人は、「思わない」20.1%と「わからない」31.6%を合わせると51.7%で、「10回以上」より約36ポイント高い。

部落差別の存在認識は、問題解決の出発点であるが、「1~4回」と「5~9回」の学習経験では「思わない」「わからない」とする割合に大差はなく、「10回以上」の継続した学習経験で、はじめて部落差別の現実を認識できるといえる。

【考察】

- ◎ 半数以上の町民は、部落差別が今でもあると認知しており、県の「同和問題についての県民意識調査」〔平成17年（2005年）実施〕との比較でも大差はないが、部落差別が今でもあると「思わない」（18.8%）、「わからない」（23.5%）を合わせて42.3%ある。

この結果は、差別が見えにくくなっているからだろうか。あるいは「差別はもうない」、「差別していない」という意識から事実を見ようとならないのか。これは「部落差別の現実」について基本的な認識が不十分であることの証左であろう。確かに、クロス集計結果からの傾向でも、研修会等への参加回数が増えるにしたがって、部落差別の存在の認識は深まりをみせている。特に、子どもの成長とともに学ぶ機会に恵まれる子育て世代の30才代~40才代の女性において顕著に表れ、部落差別の存在の認識が高くなっている。

それは、自己と周りの人たちの生活実態を素直にみつめ、自らの思いや考え、そして互いにかかわりつながり合う生活を振り返りながら現実の姿に気づき合う学びとなっているからであろう。このような学び合う共感や拡がりのある学習や研修のあり方は、広範な世代や学習内容に対応する効果的な学習を示唆している。